喉頭結核が疑われた急性喉頭蓋炎の１例

宮澤　徹　　下出祐造　　山本純平　　友田幸一
金沢医科大学医学部医学科感覚機能病態学（耳鼻咽喉・頭頸科）

喉頭結核はかつて肺結核の 30％近くに合併していたが，現在では１％弱で肺結核同様減少傾向にある．しかし，喉頭結核は日常診療の場で時に遭遇する重要な疾患であり，本疾患が疑われた場合，院内感染症対策のマネージメントにおいても早急な対応が求められる．今回，我々は喉頭蓋肉芽腫様病変を伴う急性喉頭蓋炎症例に対し，喉頭結核も疑い喀痰塗抹検査にて抗酸菌が陽性であった為，確定診断を得るまで院内感染対策をしながら入院加療をおこなった症例を経験したので医療従事者も含めた院内感染対策マネージメントの方法を含め報告する．